

議事録 概要

1 会議名	2025年度 第3回 明石市社会福祉審議会
2 開催日時	2026年（令和8年）2月16日（月曜日）14時00分～16時00分
3 開催場所	明石市役所 議会棟 大会議室
4 出席者	審議会委員（27人中24人）傍聴者3人
5 次第	<ol style="list-style-type: none">1 開 会2 報告事項<ol style="list-style-type: none">（1）明石市第5次地域福祉計画の策定について（2）こども・若者計画の策定について（3）各専門分科会からの活動報告3 その他4 閉 会
6 配付資料等一覧	<ul style="list-style-type: none">・会議次第・委員名簿・座席図・報告事項にかかる資料
7 議事詳細	別紙の議事録を参照

議事録 内容記録

司会	<p>1 開会（14時00分）</p> <p>本会議は委員 27 名のうち、過半数を超える 24 名の出席をいただいておりますため、明石市社会福祉審議会条例、第 6 条第 3 項の規定に定める会議の成立要件を満たしておりますことをご報告いたします。</p> <p>それでは、議事に先立ちまして、福祉局長よりご挨拶申し上げます。</p>
福祉局長	<p>平素は、皆様方におかれましては本市福祉行政、こども行政の推進にご理解ご協力いただいております。誠にありがとうございます。</p> <p>また本日は大変お忙しい中、第 3 回明石市社会福祉審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の審議会でございますが、前回に引き続きまして、第 5 次地域福祉計画の策定について、それからこども・若者計画の策定について、それぞれ担当の方からご説明させていただきまして、ご意見賜りたいと考えております。</p> <p>まず地域福祉計画でございますが、前回、計画の素案についてご説明し、計画に盛り込むべきことや、今後、この計画に基づいて、力を入れていくべき取り組み等について、皆様からご意見をいただきました。</p> <p>本日は、前回のご意見を踏まえて、変更した箇所のご説明や、その後パブリックコメントも実施しておりますので、その状況等を報告させていただきまして、今日は最終案ということで取りまとめをさせていただきたいと考えております。</p> <p>次に、こども・若者計画でございますが、こちらも前回の審議会におきまして、こども・若者会議の会議概要など、策定に向けた取り組みの状況についてご説明させていただきました。</p> <p>本日は、学校等で行いましたワークショップの実施結果や、アンケートの実施結果、そして、計画の素案、今後の予定等について、ご報告させていただきます。</p> <p>また本日は、これら 2 つの計画についてのご報告の後、各専門分科会の活動報告もさせていただく予定でございます。</p> <p>さて本市におきましては、対話と共創による、もっとやさしいまちづくりで、暮らしに関心を生み出すということをあかし SDG s 後期戦略計画に掲げる、まちづくりの重点事項に掲げまして、これまで以上に、市民一人一人に寄り添う市政運営を目指して参りたいと考えております。</p> <p>まさに今、暮らし安心共創予算として、来年度予算案を取りまとめまして、間もなく始まる、3 月市議会に提案をさせていただくことになっております。</p> <p>本日ご審議いただきます 2 つの計画につきましても、3 月市議会に報告をさせていただきまして、その後産官学民の共創で、施策のさらなる推進を図ってまいりたいと思っております。</p>

	<p>委員の皆様には今後も変わらぬ、ご理解ご協力を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>最後になります、気候の方も、寒暖差が非常に激しく、体調を崩されている方がたくさんいらっしゃるようでございます。</p> <p>皆様にはくれぐれもご自愛をいただきまして、それぞれのお立場でご活躍いただきますように、ご祈念を申し上げまして、簡単でございますが会議開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
司会	<p>それでは早速ではございますが議事に移らせていただきます。</p> <p>議事進行につきましては、伊藤委員長よりお願いいたします。</p>
委員長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日も活発なご議論よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず初めに、お手元の資料のうち、明石市社会福祉審議会委員名簿をご覧ください。改選に伴って委員が交代されております。</p> <p>新たに明石市民生委員協議会より田口委員、藤田委員の2名が委員となりましたのでよろしくお願い申し上げます。</p>
委員長	<p>2 報告事項</p> <p>(1) 明石市第5次福祉計画の策定について</p> <p>それでは、次第の2に進みたいと思います。</p> <p>報告事項の、まず1点目です。</p> <p>明石市第5次地域福祉計画の策定について、所管部署から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>—資料に基づき、市担当部署より説明—</p>
委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それではご質問ご意見等をお伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>先ほどフレイルサポーターのことについて述べられたと思いますが、第5次地域福祉計画29ページの介護予防の取り組みの推進項目の中で、フレイル予防を含めた介護予防に関する普及啓発やフレイルチェック会の開催などというのが削除されていますが、どうしてこうなったのでしょうか。</p> <p>メモ書きのような形になっているので、それを単に削除しただけなのか、ある程度考えて今後の方向性の中に位置付けられてこれが削除されたのか、その辺りを</p>

事務局	<p>お聞きしたいと思います。</p> <p>29 ページ介護予防の取り組みの推進のフレイル予防の関係でございますが、こちらの方は特に前回の審議会から、大きな変更をかけているわけではございません。フレイル予防は今後大事な高齢者施策と認識しておりますので、今後は、個別の計画である、高齢者いきいき計画及び第9期介護保険事業計画の中でも、さらに推進を進めるように、計画見直し等を考えていると聞いておりますので、そのような形で対応させていただきたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
委員長	<p>では他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>28 ページの障害者や高齢者の活躍と社会参画の推進いうところで、内容が非常に全部抽象的で、もう少し具体化して欲しかったという思いがあります。5年間で具体的に何をするのでしょうか。</p> <p>社会参画促進や、障害者理解の促進など内容を明確にして欲しかったのと、障害者乗車券の交付実施や、敬老乗車券の交付と書いてありますが、敬老乗車券の金額は減っていますね。役目が終えたということで、今年は交付額が少なくなっている。書いてあることの中身とちょっと違うなと感じます。</p>
事務局	<p>こちらは地域福祉の大きな方針という意味合いでの計画でございますので、特に細かい内容の取り決めというものは、各個別計画等で落とし込みをさせていただく予定でございます。</p> <p>また敬老優待乗車券等につきましては、予算の方でも審議をしまして、今後適切に執行していく形になるかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>では、他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>重層的な支援体制の推進というところで42 ページに、推進イメージという形で、多機関協働ネットワーク会議など、いろいろな会議が出てきますが、その主体がはっきりしていません。</p> <p>市も含めてどこが統括しているのか、どこが責任持って対応するのかなどが全くわかりません。どういう構成でその会議がなされているのかわからないという印象があります。</p> <p>重層的支援体制も、1つの個別的対応にあたると思われれます。部署ごとに自分たちが持っている範囲を超えた領域を含めて、お互いに協力し合って、個別対応をしていこうということですが、その個別的な対応をもう少し総合的に見ていくような視点というのも要るのではないかというふうに思います。</p>

事務局	<p>とにかくこの会議は、どこがどういう形で、誰が構成して推進していくのか。その辺りをもう少しお聞きしたいと思います。</p> <p>今のご質問に対しましてお答えさせていただきます。</p> <p>多機関協働ネットワーク会議あるいは重層的支援会議につきましては、事務局を市と社会福祉協議会が担っております。</p> <p>主体としては、市と社会福祉協議会になりますが、方向性として重層的支援体制というものが、関わる相談機関、支援機関としっかりと連携をとりながら、体制をとって進めていくということですので、全体として連携の輪というものをこの図で表現しています。</p> <p>関わる機関が多くなればなるほど連携が難しくなるため、特に会議や研修等を通して、連携をより密にしていくこととなりますが、個別のケースにつきましては、関係する機関が集まって重層的支援会議等を行う中で、できることできないことや、それぞれが連携していくこと等につきましてケースごとに、しっかりと協議していくというような形にしております。</p> <p>以上になります。</p>
委員	<p>重層的支援会議と支援会議は2つあるように書いてあるのですが、具体的に誰が委員になって、どこから抽出されて、会議を構成するのか。また、多機関協働ネットワーク会議とは、どこが集まって会議するのか、その辺りは具体的にいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>それぞれの会議ですが、支援を受ける本人が同意している場合に、重層的支援会議と名付けて行います。</p> <p>本人の同意がなくても、関係機関が集まって、本人に対しての支援のあり方について、話し合う会議を持つことができるのですが、そちらについては支援会議と呼んでおります。</p> <p>多機関協働ネットワーク会議等にどのようなメンバーが入っているかというところですが、市役所の中の相談支援関係の部署や、地域総合支援センター、民間の相談機関、医療機関等、福祉、医療、介護に関わるような機関について集まっていたら、会議をしているということになります。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>恐らく委員が聞きたいこととしては、この支援会議とか重層的支援会議を招集するのは、どこかということと、その会議で決定されたことを、各機関に伝えていく主体はどこかというご質問が中心かと思うのですが、それは決まっているのでしょうか。</p>

事務局	事務局としては市と社会福祉協議会になります。市の部署で言いますと、共生社会推進課が中心になっており、そこで調整をします。施策としての反映となりますと、共生社会推進課、外部機関につきましては、社会福祉協議会の方で、それぞれフィードバックをさせていただいているというところです。
委員長	はい。その主体は両方なのですね。 市と社会福祉協議会と手を携えて進めていくという理解でよろしいでしょうか。
事務局	おっしゃる通りです。
委員	ということはそのメンバーや組織、部署というのは固定されていないというふうに解釈してよろしいのでしょうか。 個別ケースにおいて、必要な部署のメンバーを招集するイメージでよろしいですか。
事務局	はい。そのケースに関わる支援機関等にその都度、お声掛けをして、参加していただいているということになります。多機関協働ネットワーク会議という横の連携を深めていくことが目的の会議においては、もう少し大きな枠組みで、想定し得る関係機関すべてにお声掛けさせていただいているということになります。
委員長	よろしいですか。 では他にはいかがでしょうか。 はいお願いします。
委員	私のところの地域では、要支援者の個別避難計画と避難訓練に力を入れながら、その前にはお助け隊という組織を作って、まず地域の高齢者の、特に一人暮らしの方の現状を、安否確認を兼ねながら訪問し、その上での要支援者の個別避難計画として訓練しています。 こういった制度が国全体で14%しか進んでいないという現状で、資料49ページの重点的な取り組みの中で、災害時要配慮者への個別避難計画数を、現状値が339件で目標値が1500件となっています。 この2030年には1500件ということですが、この実現可能性というのはどれぐらいなのか、お尋ねしたいなと思いましたので質問させていただきます。
事務局	委員の地域では個別避難計画について毎年熱心に取り組んでいただきましてありがとうございます。 現状としては2024年度339件で、今年度末の数字は確定していませんが、500件

	<p>という計画作成を目標に進めております。</p> <p>これが取り組みを始めて以降の4ヵ年での目標値ということになります。それが、2026年度から30年度ということで5ヵ年計画となり、この個別避難計画も少しでも地域の方に取り組みやすく、より広く多くの方に作成を広げていけるように今後工夫をしていきたいと思っています。そういった意味も込めまして目標値としては現状の目標から、さらにステップアップした、1500件と定めております。目標値がなぜこの1500件かというところで言いますと、明石市内でも、例えば明石川という、大きな川の近くであったり海に近い沿岸部にお住まいの、支援が必要な要配慮者の方が、1000から1500人程度はいらっしゃるというという見立てがございますので、まずはその1500件を目標としていきたいということで設定しております。よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>最後の質問で、43ページは地域総合支援センターに関して項目を割いておられます。</p> <p>例えば地域福祉において、今明石市では13地区にまちなかゾーン会議を置いて、医療職、福祉職、地域の代表の方、施設の代表の方が集まって、地域の課題を検討しています。</p> <p>このまちなかゾーン会議はこの中に位置づける必要はないのでしょうか。</p> <p>市からすると、社会福祉協議会に委託し開催しているものだからという取り扱いなののでしょうか。</p> <p>専門職やその地域のメンバーが、課題としてあげている内容を具体的に検討していく場ですので、しっかり位置付けて出てきた意見を引き上げていくものとして扱うべきだと思うのですが。</p>
<p>委員長</p>	<p>いかがでしょうか。</p> <p>はい、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>まちなかゾーン会議ですが、市内13中学校区それぞれに設置しておるものがございます。</p> <p>委員がおっしゃるような意義が大きくあるということは、当然認識しております。ただ、まちなかゾーン会議のあり方については、参加者の方々も含めまして、様々なご意見があるということで、今後のあり方についても見直していこうと検討しているところです。</p> <p>参加者の皆さんにアンケートをとるなど、ご意向もお聞きしながら、丁寧に見直しを進めていきたいと思っております。あえて計画の中には位置付けておりませんが、しっかりと今後の継続性も含めて検討しながら、さらに意義のあるものにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

委員長	<p>はい。ありがとうございました。 他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>ほっとプランの基本目標1で施策が1から7までありまして、26ページから、生活困窮者への支援や、認知症の本人や家族への支援などいろいろな支援が書いてありますが、いわゆる知的、精神障害の支援という、当事者そのものに対する支援は、圧倒的に家族が担っている現状があります。</p> <p>例えば身体障害については漸減、あと精神と知的は漸増を続けておるとというのが現状ですけれども、精神障害、知的障害の当事者に対する支援は、いろいろありますが、反対にその家族が支えている支援の方が圧倒的に多いです。</p> <p>ほとんどが家族同居で支援をしているという状況の中で、身体障害者や精神障害者は家族が見るのが通例のようになって、家族としては相当疲弊をしているというのが現状です。</p> <p>ほとんどが母子同居みたいなケースが多いのですが、経済的にも離れられない、普通の精神的な意味でもなかなか離れないという、いわゆる老障介護という介護形態が、当たり前になってきつつある中で、家族の支援というのをもう少し明確に、取り上げていただいたらありがたかったです。この中に、ほとんどそれがないので、今後の対応としては、何か考えていただきたいというふうに思います。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。 お願いします。</p>
事務局	<p>障害のある方への支援施策としましては、一昨年策定しました障害福祉推進計画の方に掲げておりまして、委員からご紹介があったように、医療的ケア児への支援や、障害児の通所支援などいくつかの項目を重点施策として取り組んでいるところです。</p> <p>地域福祉計画は地域福祉全体の大きな計画ですので、そこまで詳しい内容を規定していないというところは所管の課長からご説明があったところですが、確かに障害の分野で委員ご指摘の通り知的障害のある方へのご理解であったり精神障害の方へのご理解、あとは知的障害のある方の支えていらっしゃるご家族の負担であったりとか精神疾患を抱えたご家族を支えていらっしゃるご家族の負担等もあることは私たちも重々承知しておりますので、具体的な内容につきましては障害福祉推進計画の中でしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えているところです。</p>
委員長	<p>はい。委員よろしいですか。 今の説明だと、障害者の福祉計画というのが別にあるということでしょうか。</p>

事務局	<p>3 ページに図が書いておりますけれども、地域福祉計画には、それぞれ各個別の計画が繋がっています。</p> <p>地域福祉計画は大きな方針的なものですが、それぞれの中の個別計画の方に細かい内容や、これから推進していくべきことなどを規定していく形になりますので、こちらのあかし障害福祉推進計画の方で細かい内容は計画していくことになります。</p>
委員長	<p>その中に、家族への支援も入っているということですね。</p>
事務局	<p>今後計画の中で個別に検討される形になります。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>では、他にはいかがでしょうか。</p> <p>ないようでしたら次に進みたいと思います。</p> <p>(2) こども・若者計画の策定について</p>
委員長	<p>次は2点目のこども・若者計画の策定について、所管する部署より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>—資料に基づき、市担当部署より説明—</p>
委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは委員の皆様からご質問ご意見いただきたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
委員	<p>この活動はすごく素晴らしいなと思い聞いていましたが、こうやって集まって意見が言えるこどもたちはとても健康的で、すごくいいと思います。</p> <p>私も、障害のあるこどもからお年寄りまでをずっと見てきたものとして、発達障害が疑われるこどもたちの不登校が年々増えているのですが、それに対して明石市が何年か前に、5歳児健診を始められたということは、非常にいいことだなと思います。</p> <p>1歳半、3歳健診で、発達障害が見つかって、そこから療育を受け始められるこどもはいいのですが、そこで見逃されてそのまま小学校に上がってしまい、学校になじめずに不登校やいじめに遭うということが多くあります。5歳児健診というようなとても良い制度がせつかくあるので、見逃されるこどもが減り保護者の負担も減るように、この5歳児健診をいかに有効にしていくかというような視点も持っていただけたら非常にありがたいなと思います。</p>

委員長	はい。ありがとうございます。 お願いします。
事務局	ご意見をいただきました個別具体の事業について、直接今回の計画に列挙されているような内容にはなってごさいませんが、基本的な考え方や方向性は、この計画の中に表されているところでごさいまして、それ以外の事業については、これまで通り法令、個別の計画に基づいて、引き続き各部署と連携しながら実施していきたいというふうに考えております。 以上でごさいます。
委員長	はい。 ありがとうございました。 他にはいかがでしょうか。
委員	こども・若者計画について、ある種感動を覚えながら読ませていただきました。若い人たちが、自分たちのまちのことをすごく考えているなという印象を持ちました。 そういう意味で明石の未来は明るいなという印象を持った次第ですが、先ほどの、第5次地域福祉計画の、基本目標2、36ページ施策1の担い手の発掘と育成というところで、①若年層に対する人材育成の推進ということが挙げられています。 確認になりますが、こども・若者計画と、この施策1の関連性について、市としてどの程度意識されているのかを確認したいなと思いますので、よろしくお願ひします。
委員長	はい。お願いします。
委員	36ページの若年層に対する人材育成の推進というところと、本計画の関連性につきましてですが、本計画の施策展開の3つの柱のなかで、例えば安全安心なまちづくりや、快適で自然にやさしいまちづくりなど、いろいろ項目がありますが、この個々の項目がどの事業と直接関わっているというような整理はまだしてありません。 政策展開の柱というものは、広い内容を包含する内容になっていますので、今後そのような整理につきましても、横軸を通すという意味でしっかりと整理をしていこうというふうに考えております。
委員	はい。ありがとうございます。

委員	<p>具体的にはお答えにくいとは思いますが、こども・若者計画の素案を読ましていただいたところ、やはり地域福祉に関連する内容がこどもの声としてたくさん出てきていますので、これは拾っていくべきだと思います。</p> <p>もちろんそのように進めていく計画になっており、大人も責任を持って計画を推進していくというようなことが書かれていますので、やはり地域福祉計画との連携や関連について明確にしたほうが、大人の責任が明確になるのではないかと思います。その点について確認していただけたらと思います。</p> <p>地域と繋がる仕組みづくりを、こども・若者計画の柱2のところに記載させていただいております。</p> <p>例えばこども・若者が家庭や学校の中だけで完結せずに、地域の中で、多様な大人や仲間と関わる機会を持てる環境を整えることを目指し、具体的には地域活動やボランティア、居場所づくりなど、既存の取り組みと繋がりやすくするための視点はお示しをさせていただいているところでございます。</p> <p>具体的に新たな事業を列挙しているものではございませんが、地域との関わりを、施策検討の前提として位置付けている計画でございますので、ご理解いただけますようお願いいたします。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>ありがとうございました。お願いいたします。</p>
委員	<p>私もこの計画を見て、よく作られたなと感心するとともに、それぞれがいろんな意見を出して、いいまとめ方ができたのではないかと考えています。ただ2点気になったのは、今明石市内の小中学校で1000名以上の特別支援学級に在籍している児童生徒がいますが、この子たちはヒアリングの対象にしましたか。</p> <p>もう1つは、この意見をいろいろ見ていた中で、ヒアリングの対象範囲を広げて、いろんな意見を集められたという努力は、非常にいいと思うのですが、障害当事者のこどもたちの意見集約をどのようにされたのかなということをお聞きしたいと思います。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>具体的に特別支援学級という名前が出ましたけれども、そちらも含めて意見を出しにくいこども・若者については、平素から関わり持っている庁内の関係各課、関係機関を通じてアンケートを取るという形で意見の聴取をしております。</p> <p>アンケートの回答にあたっては、アンケートの内容の説明や、必要に応じて、入力補助など、職員やスタッフが支援したところでございます。</p> <p>もちろん特別支援学級にもアンケートを行っておりますし、その他の施設についても、アンケートをして声を聞いております。</p>

委員	<p>この計画の策定にあたり、中心的に関わっていたのはこども・若者会議のメンバーですが、そこで議論される中で、聴取したアンケートや、ワークショップで出た意見を十分整理して、自分たちの中でそれを踏まえて、この計画を作成したところでございます。</p> <p>あまりその個別具体の意見を列挙するというよりは、そこに共通するような、それぞれの意見の奥にあるような考え方を整理して、理念や、施策展開の柱を決定したところございまして、その結果こちらの計画ができたということでございます。</p> <p>ありがとうございます。それは理解できますが、アンケートに答えられないこどもも一部います。ですので、たくさん話し掛けて、いろんなことを引き出してあげないと、なかなかその言葉が返ってこない、そういう特性を持ったこどもたちが多いので、やはりそのような対応をしていただきたかったです。</p> <p>一生懸命やられたことは重々理解しており批判しているわけではありませんので、誤解しないようにお願いします。</p> <p>学校の中でも、こどもたち同士は結構コミュニケーションを取っているので、意見の出し合いを、大人が出るよりこどもたち同士でもらった方がうまくいくこともあるかもしれません。</p> <p>なかなか意見が出しにくいこどもたちの声も吸い上げるようなやり方も考えていただきたいです。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。少しだけ補足のご説明をさせていただきます。</p> <p>先ほど事務局の方から、小学校や中学校の特別支援学級でアンケートをとりましたということで、お答えさせていただきましたが、このアンケートの取り方も、先生方に聞き取っていただいて、それをタブレットで入力したり、施設の方でも、障害者支援団体の方に聞き取りをお願いして、アンケートに答えていただいたりということで、しっかりとお声をお聞きしながら、意見聴取をさせていただいています。</p> <p>個別具体的な結果が出てきてないというところが、少し引っかかりがあるところなのかなと思います。この問いの仕方が、将来の明石がどんな明石になったらいいな、というような設問で全て聞いておりますので、他の委員からもご意見をいただいていたように、明石のこども・若者の皆さんが、自分のことを答えるのではなく、全体として、明石がこうなったらいいなということで、お答えを返してくださっていますので、余計に個別具体の意見があまり出てこずに、全体的な意見が多かったのかなと、そのように考えておるところでございます。</p>
委員	<p>この計画について、こども自身が、明石のことを一生懸命考えて、その中で出てきている意見で、それもよくまとまっていてとてもいいなと思いました。</p>

事務局	<p>最終的にはこども・若者計画ということで冊子を作られますか。</p> <p>せっかくですので、例えば警察ですとか消防ですとか、そういったところに積極的にご配布いただいたら、例えば交通安全のことや防災のことなどたくさんのごことが書かれていますので、ぜひたくさん印刷していただいて配布していただけたらいいのではないかと思います。</p> <p>おっしゃっていただいた通り、このこども・若者を軸に、計画作っておりますので、道路のことですとか多岐に内容が渡ってきておりますが、これにつきましては、こども局としてもしっかり周知をして、こども・若者の声を各所管にお伝えし、各所管の方からの声をこども・若者に伝えていくなど、その第一歩として、計画ができあがりましたら周知を図ってまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p>
委員長	<p>(3) 各専門部会からの活動報告</p> <p>それでは3点目、各専門分科会からの活動報告について、それぞれ所管の部署より報告をお願いいたします。</p> <p>—資料に基づき、市担当部局より報告—</p>
委員長	<p>ただいまの報告について、ご意見ご質問等あればお願いしたいと思います。</p> <p>いかがでしょうか。はい。飯塚委員お願いします。</p>
委員	<p>こどもセンターに一時保護されたこどもたちについて、次の居場所ということで実親のところに戻れない場合は、里親さんのところに行くと思います。</p> <p>ただ、発達障害や知的障害のこどもたちを見てくれる里親さんが少ないという実態を知っており課題と感じていますので、里親さんに対して、障害の理解促進のための研修などをしていただけたらということで、以前に意見を申し上げましたが、その後どうなっているのかが気になりましたのでよろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>今ご質問のありました、発達障害等を抱えたお子さんに対する、対応ができる里親さんなどの人材の養成というところがございますが、まず里親へ登録する前に</p>

	<p>は、必ず研修、あるいは実習等も含めて、法定の研修を受けていただくことになっております。</p> <p>当然その研修の中でもそのような障害、あるいは発達の遅れを伴ったこどもが増えている実態がございますので、そのようなこどもとの関わり方などについて学んでいただく機会として、講義や、実際に施設等に行って実習を受けていただいています。</p> <p>里親に実際になられてからも、様々なテーマを設定して個別の研修等を企画し、障害に対する知識を身につけていただくように、働きかけはしているところでございます。</p> <p>センターとしても、そのようなこどもが増えている実態がございますので、研修を受けていただける方にどんどん増えていただくことは、必要だと思っておりますし、今後もそういったところに力を入れていきたいと思っておりますので、ご理解ください。</p>
委員	<p>発達障害や知的障害のこどもたちを見てくれる里親さんは、実際には増えていきますか。</p>
事務局	<p>そのハードルは、やはり高いものは実際にはあります。</p> <p>こちらからの説明の仕方や、あるいは委託をした後もこどもセンターがどういった形で支援に関わっていけるのかというところは、丁寧にご説明を差し上げて、ご理解いただけるように努めているところでございます。</p>
委員	<p>そういうところに、プロがフォローする体制もあってもいいのかなとは思いますが。里親さんがすぐに相談できるような療育のプロとの連携がとればいいのかなとは思いますが。</p>
事務局	<p>里親さんのフォローというところで、子どもの発達障害であったり、愛着障害などの課題もあり、なかなか養育が難しいというところも、実際ございます。そういう中で、こどもセンターには小児科医師もいますので、小児科医師の相談体制を作ったりですとか、里親さん同士での交流ができるような里親会でいろんな活動もしたりしながら、フォロー体制について力を入れていっているところでございます。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>8ページの民生委員のところで、お尋ねさせていただきたいと思えます。</p>

事務局	<p>私も障害福祉分野の現場で働いている中で、最近やはり民生委員などの身近な方の発見や、支えなどはとても大事で、民生委員は地域のキーパーソンだと思っています。</p> <p>その中で民生委員の方は年に1回以上、研修をしっかりと受けていただいたりとか、地域の連携といったところでは、様々な繋がりを独自にお持ちだと思っておりますが、やはり現役世代での担い手が課題になるのはどの地域でもあるかと思えますし、自治会の崩壊であったりとか、継承といったところでも課題になることはあると思います。</p> <p>現在欠員が4名引いての22名ということで、地区担当制の中で、やはり担い手がいらっしやらない地域への、今後増やしていくための活動として、まず22名をどのように確保していくかという本年度の目標にどう対応されるかということと、次の3年間を見据えて、民生委員の今の年齢層構成と、現役世代でなかなか人数が増えない状況の中での今後3年間の人材確保の考え方について、何らかの方針やお考えがあれば教えていただきたいです。</p> <p>確かに地域の担い手の確保は厳しい状況でございまして、世間で言われている地域の希薄化や定年延長の影響などで、民生委員になっていただける方の年齢そのものが上がってきている状況です。</p> <p>そのような状況を踏まえ、私どもとしましては、働きながら民生委員児童委員をすることができる環境を整えるということを考えております。</p> <p>そのためには当然負担の軽減が必要です。DXなども活用しながら、月1回行っている会議に出席できなくても、会議の動画を見ることによって、同じような知識を得ることができる。または、今皆さんが研修をいただいている内容も動画に残して、後で見返すことによって、同じような知識を得ることができる。</p> <p>そのような取り組みを考えながら、少しずつ民生委員さんの業務の軽減をさせていただいているところでございます。</p> <p>あと後任者の確保がなかなか難しく、今の民生委員児童委員の方に対して、早いうちから次の候補者を探しておくようお願いをしているところではございますが、かなり厳しい状況になってきておりまして、また自治会長、町内会長さんも、なかなか探すことを苦慮しているような状況でございます。</p> <p>そういった中で、まず、自治会長、または民生委員さんだけに頼らない方法というものを今現在考えておりまして、こちらについては、明石市の民生児童委員協議会とともに、そのやり方を模索しております。</p> <p>また全国の中核市、また兵庫県内の市町などにも確認しまして、より効率的で、明石市に合った民生委員の選び方というものを、今現在考えているところでございます。成果が出ましたらご報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
-----	---

委員	<p>ありがとうございました。 本年度の欠員に対して補充の計画はございますか。</p>
事務局	<p>今現在、欠員が27名ですが、新たに4名の方が委嘱されました。 ただ退任される方もいらっしゃいますので、4名の欠員減になったわけではございませんが、また8月の次の委嘱の時に数名、候補者がいるというふうに聞いていますので、少しずつではございますが、充足率の増に向けて動いているところでございます。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。 他にはいかがでしょうか。 よろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>3 その他 次第の3その他に移りたいと思います。 私からですが次年度の会議は5月ごろ開催の予定にしております。 日程につきましては多少前後する場合も考えられますのでよろしくお願いいたします。 5月ごろですが議題につきましては明石市の福祉こども関係重点施策の説明、令和8年度の活動予定などとする予定です。 この他、委員の皆様より市の福祉施策等に関しご意見ご質問等があったら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>明石市が直接主体になっているわけではありませんが、この前の新聞に、重層的支援体制整備事業の予算について、厚労省が半分ぐらいに削るという内容の記事が出ていました。おそらく、明石市にも影響があるというのは間違いのないと思うのですが、その辺りの見通しなどがありましたら教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>現時点で得られている情報に基づいてお答えさせていただきます。厚労省から自治体向けに示されている内容としましては、2点ありまして、1点は、重層的支援体制整備事業の実施期間が5年を経た自治体に関しては、交付金の負担割合を若干上げるということが示されております。具体的には、今市町村においては全体の4分の1の費用負担となっておりますが、負担割合が3分の1になるということが示されております。 ただ明石市につきましては、令和5年から事業をスタートしておりますので、実際にその負担割合が変わってくるのは令和10年度からということになるかと思っております。</p>

委員長	<p>あくまで今現時点での方向性ということですので、他の自治体の実施状況がどうなっていくかによって、その負担割合の部分も変わってくるかとは思いますが。その辺りの状況を注視しながら考えていきたいと思っております。</p> <p>先ほど、負担割合が変わりますということを申しましたが、それも重層的支援体制整備事業の一部、多機関協働支援事業の部分のみが関わってくるということで、影響としては、さほど大きくはないかと考えております。</p> <p>はい。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、ここで進行を事務局にお返ししたいと思います。</p> <p>連絡事項等あればお願いいたします。</p> <p>—事務局より事務連絡—</p> <p>4 閉会</p>
-----	--